

蝙蝠

藤倉一郎

夏も終わりの夕暮れ
暗くなりかかった空に
蝙蝠は
八タ八タととびかう
陽は沈み
空には月も星もなく
残照だけが
残っている
鳥でもなく



昆虫でもなく

ときおりキイとなく

蝙蝠は哺乳類なのだ

人生の終わりに近く

暗い晩秋の夕暮れ

わたしはあてもなく

あゆみつづける

何処へ行けばよいのか

わたしの休息する場所は

何処にあるのか

蝙蝠よ

天使

あなたは天使です



天使の翼が

よく似合います

心臓の疾患と

精神障害をもちながら

愛らしい瞳とそばかすの顔で

微笑む姿は

空を舞う天使です

やさしい心と

あどけない仕草が

あなたを

いつそう可憐にします

今日も診療のとき

自分で作ったビーズの玩具を

はじらいながら

わたしに手渡しました

一言の言葉もなく



終始ほほえんで

わたしの質問には答えませんが

母に同意を求めるように

振り向いては

答えさせます

くったくなく生きている

あなたは天使です

何の憂いもない

幸福な時間を

小鳥のように

生きてください

限られた

みじかい

天使の

生命を

